

令和4年4月1日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ）の越冬量について

本年1月に実施した果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ）の越冬量調査では、県内6地点の平均越冬量は0.56頭/m²と、過去10年間で最も多く確認されています（図1、2）。

このような状況から、越冬世代虫の7～8月頃までの園内への飛来が平年より多くなることが予想されるため、4月以降の飛来状況には十分注意し、適切な防除対策を実施してください。

【作物】果樹全般（ウメ、モモ、スモモ、キウイフルーツ、ナシ、カンキツ等）

【病害虫】果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ）

防除上の注意事項

ア カメムシ類の園内への飛来は地域や園地により大きく異なるので、園内外をこまめに見回り、早期発見に努めると共に、地域で一斉防除を行うと防除効果が高い。

イ 合成ピレスロイド系殺虫剤の多用は、天敵等への影響が大きく、ハダニ類の発生を助長するので最小限の使用にとどめる。

薬剤散布については、農薬使用基準（希釈倍数、使用時期、使用回数等）を遵守するとともに、周辺作物への飛散防止対策を徹底する。

ホームページアドレス <http://www.jppn.ne.jp/oita>



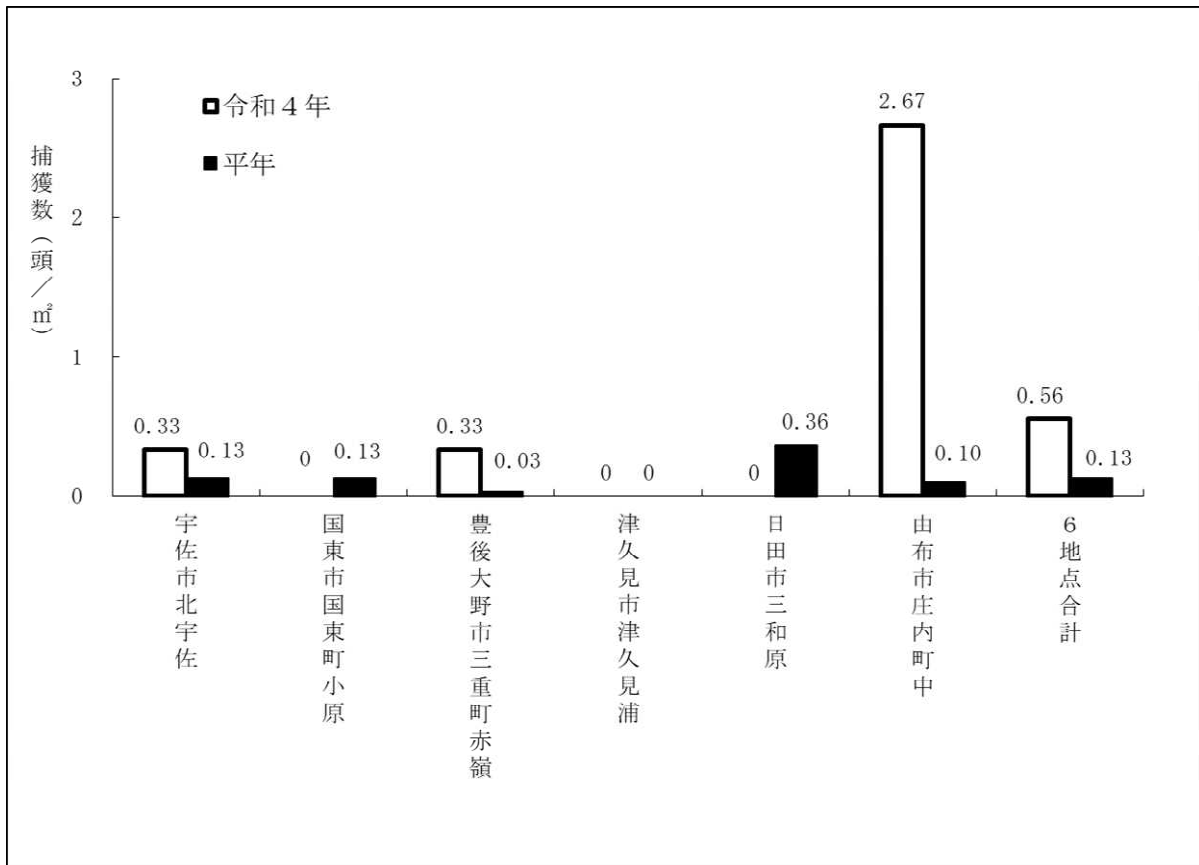


図1 チャバネアオカメムシ越冬量調査 (県内6地点)

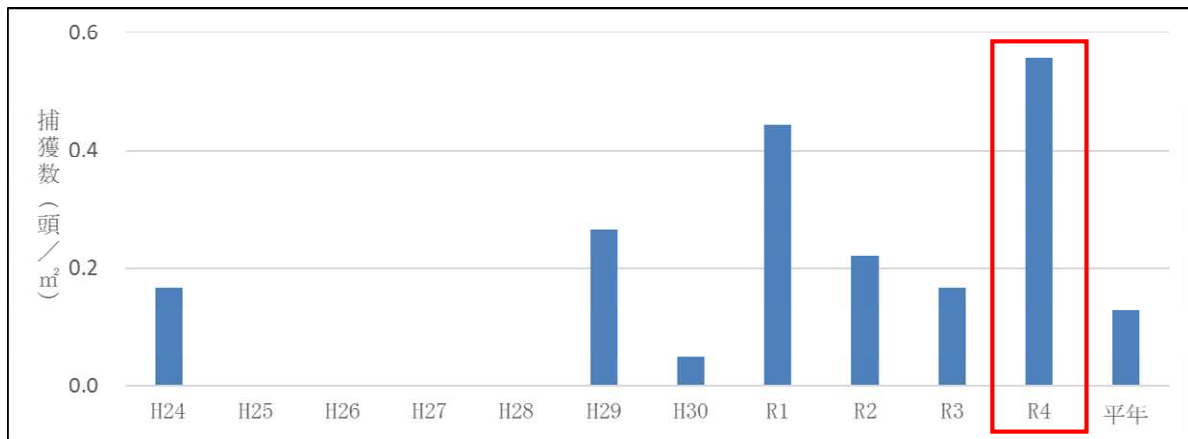


図2 チャバネアオカメムシ越冬量調査 (過去10年間および平年との比較)